

令和7年度 租税教育に関する 研究発表

岩沼市立岩沼中学校
教諭 小室 那由他

1. 研究主題

「中学校社会科歴史的分野における
租税教育の指導の工夫」

2. 主題設定の理由

生徒の興味関心に関するアンケート

Q. 社会科で学ぶ「税」について興味のある分野は？
(対象第1学年134名/複数選択可/回答105名)

- 地理的分野：30.5% (32名)
- 歴史的分野：59.0% (62名)
- 公民的分野：53.0% (56名)

「税」に対する印象の傾向

- 肯定的意見
「生活しやすくする」「公共サービスに必要」
- 否定的意見
「高い」「政治家が無駄遣いしている」

課題

- 租税の意義理解◎ 主権者意識の不足
- 「自分ごと」として税をとらえる視点

学習指導要領上の租税教育の位置づけ

•租税に関する事項

→公民分野（3年）「私たちと経済」

•地理歴史は公民的分野の基礎

歴史的分野での指導の必要性

•公民（3年次）

→受験期：表面的な暗記。深い考察が困難な傾向

•歴史（1・2年次）

→租税に絡ませ、興味・関心を喚起。
公民への円滑な接続

3. 研究の目標

「歴史的な見方・考え方はたらかせながら租税の意義を考察する生徒の育成」

目標達成のための具体的な考察の視点

1. 推移：税は時代と共にどのように変化したか
2. 比較：古代と現代の租税の共通点・相違点

4. 研究方法

(1) 実態調査

(2) 歴史的分野の授業実践

(3) 生徒の変容の分析

5. 研究の概要

授業実践

単元名

第2章 「古代までの日本」

第3節 「古代国家の歩みと東アジア
世界」

本単元における租税に関する視点の意義

- ・律令国家の成立→租税制度に支えられる
- ・考察の機会→租税を視点に古代国家の構造を考察
- ・現代への接続→古代と比較で現代の租税を考察

単元を貫く問い

「古代日本にとって、律令、租調庸、戸籍はどのような意味を持っていたのだろうか」

本時の指導

・題材名

「古代の『税』と現代の『税』を比較しよう」

・本時の目標

古代日本にとって律令にはどんな意義があったのか、租税を視点に為政者と庶民の立場から多面的に考察し、表現することが出来る。

【思考・判断・表現】

授業展開

	活動内容
①租税の役割	租税（租・調・庸）の仕組みを確認し、復習する。
②為政者の立場	国家にとって「税」はどのような意味を持っていたのかを考察する。
③庶民の立場	庶民にとって「税」の負担感はどのようなものだったのかを考察する。
④比較考察	古代の「税」と現代の「税」の共通点や相違点を比較考察する。

学習課題 古代の「税」と現代の「税」の共通点や違いは何か？
①復習しよう Q 古代の税にどのようなものがありましたか？
租の内容（何を納めるか・だれが納めるか等）
租
調
庸
②税の立場から考えよう Q 古代日本は、どうして「律令」を整備して「税」を課せようとしたのだろう？
あなたの考え
友だちの考えがめ
ヒントワード 貢、自村は納い、租調庸、方役、具役、強い国
③税の立場から考えよう Q 古代日本の庶民は「税」についてどのように感じていたのでしょうか？
あなたの考え
友だちの考えがめ
ヒントワード 戸籍、租調庸、方役、具役
④古代の「税」と現代の「税」を比べよう Q 古代の「税」と現代の「税」の共通点や違いは何か？
あなたの考え
友だちの考えがめ





課題②

②国の立場から考えよう

Q.古代日本は、どうして「律令」を整備して「税」を集めようとしたのだろう？

あなたの考え

租調庸の他に労役や兵役の義務が課され、道の整備や兵士を増やして強い国にしようとした。朝廷の力だけじゃ難しかったから税を国民から集めた。

②国の立場から考えよう

Q.古代日本は、どうして「律令」を整備して「税」を集めようとしたのだろう？

あなたの考え(根拠)

- ・租→飢饉に備えた 調、庸→貴族や役人の給料、朝廷の運営 (教科書48p)
- ・国を統一して強い国

②国の立場から考えよう

Q.古代日本は、どうして「律令」を整備して「税」を集めようとしたのだろう？

あなたの考え(根拠)

多賀城が置かれたり、広い道路ができたり施設が作ったりなど権力のある国をつくりたかったから

課題③

③ 庶民の立場から考えよう

Q 古代日本の庶民は「税」についてどのように感じていたのでしょうか？

あなたの考え

戸籍を偽ってまで納める税の量を減らそうとしていたことから、税は庶民にとって大きな負担だった。また、兵役や労役は物ではなく時間を取られるから、特に大きな負担だったと思う。

③ 庶民の立場から考えよう

Q 古代日本の庶民は「税」についてどのように感じていたのでしょうか？

あなたの考え(根拠)

男性の方がはるかに納める税が多かったり、貴族と庶民とで食や家の差が大きかったため庶民は税の負担が大きく税をなくしたかったらう

課題④

④ 古代の「税」と現代の「税」を比べよう

Q 古代の「税」と現代の「税」の共通点・ちがいは何でしょうか？

あなたの考え(根拠)

現代の税は媒体が金で、生活する人々のために使われているが、古代の税は稲や布などを媒体にして納め、全ての人々に平等に使われるわけではなかった。個人的には、今の税の方がまだまし。今の税は僕たちの生活に役立っているが、古代の税は不平等すぎるから。

④ 古代の「税」と現代の「税」を比べよう

Q 古代の「税」と現代の「税」の共通点・ちがいは何でしょうか？

あなたの考え(根拠)

古代の税は強い国を作るためのものだったけど、現代の税は、国民のためのもの。

④ 古代の「税」と現代の「税」を比べよう

Q 古代の「税」と現代の「税」の共通点・ちがいは何でしょうか？

あなたの考え

共通点 ズルをする人がいる。

違う点 税が何に使われているかが市民に知られているかいないか

生徒の気付き

- ・庶民・為政者の比較
→租税が公共事業に必要と認識
- ・古代・現代の比較
→「だれのため」「使いみち」など民主主義において重要な視点の考察
- ・社会の形成につながる考察
→現代は「国民の為に使われている」ことの再確認

6. まとめと今後の展望

成果

- ・歴史的分野における租税教育は、生徒の興味・関心を引き出し、多角的に「租税の意義を考察」する力の育成に有効である。

課題

- ・租税を視点にした考察を、他の地理・歴史的分野の単元にも展開し、生徒が租税の意義についてより深く多角的に考察できるよう、公民的分野にもつなげる。